

令和6年度 園評価書

園番号 41 園名 静岡市立蒲原西部こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	○成果 △課題	自己評価	関係者評	関係評価委員から	改善策
自分が好き 友達が好き 心豊かな蒲原の子	「今日もやりた い」 「またやりたい」	自然と触れ合う中で様々なことに 興味や関心をもって遊んでいる	○園庭や園周辺の自然に目を向け季節の自然物を遊びに取り入れた。子どもたちが自ら見つけた発見には五感で感じる ものがあり、キラキラ・きれいなど思わず声に出し手に取るうとしたり、その後の遊びにも興味が広がった ○園庭にある自然物を使ってまごどや、クリスマス飾りに取り入れて遊ぶことができた	A	A	・地域の方が声を掛けてくれることが、子どもたちの喜びや励みになっていると思われる。子どもたちが蒲原の温かい中で育っていることを小学生がバスで出掛ける際に皆が声をかけてくれることから感じる	令和7年度～ 休園
		身近な環境（蒲原のひと・もの・ こと）に自分から関わり、気づい たり考えたりして遊んでいる	○乳児は蒲原の町や園周辺（海・山）を保育者自身が見て回り、子どもとの散歩につなげた ○乳児は計画的に園外に出かけ、地域の方とのかかわりが持てた。散歩先では多くの発見があり、拾ってきた山の恵みや、海の貝殻を使い製作や遊びに取り入れ、子どもの興味が広がった。 ○遊びと生活展では、蒲原の自然を生かした作品を展示することができた △幼児は園外に出る機会が少なかった。経験させたいことを持ち、地域の情報を得て、機会を逃さずに蒲原ならではの体験をしたい	A	A	・地域に出かけることが増えたことで、地域の人とのかかわりが増え、挨拶やちょっとした会話など自然と話ができ、そのことも子どもたちの楽しみになっていた。子どもたちが地域となじむ姿があつてとてもいいと思う。また、身近な山に何度も行くことで2歳児も体力が付き歩けるようになっている	
		色々な素材に親しみ、工夫して遊 ぶ	○子どもに提供する前に、教材研究をし子どもの姿や発達、興味にあっているか確認し遊びにつなげた ○教材は出すタイミングや提供の仕方を工夫する必要がある。実践してみると子どものわくわくが感じられ、夢中になって取り組む姿が見られた △保育者が道具の正しい使い方を知り、素材の選択できる幅を広げる。まずは保育者自身が試し、子どもと使う中で素材の面白さや特性を知り、子どもの遊びの中に取り入れていきたい	B	B	・家庭でも草花や花束にしてプレゼントしてくれたり、花の名前を覚えてくれたりと、園で自然に触れる体験ができ感性も豊かになっていると感じる	

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	○成果 △課題	自己評価	関係者評	関係評価委員から	改善策
1 こども園における 教育及び保育	(1)0歳から小学校就 学前までの一貫した 教育及び保育	年齢による発達の違いを理解し、 一人ひとりの発達や子どもの実態 に合わせて援助する	○年齢による発達を意識した上で、個々の姿を踏まえ一人ひとり丁寧に寄り援助している ○日々の振り返りに参加しない職員と子どもの姿の情報を共有する機会が増えた。職員が変わっても同じ援助ができるようにしている（口頭・伝達ノートなど）	B	A	・少人数なので発達よりも個に合わせる ことが大事である	令和7年度～ 休園
	(2)一日の生活の連続 性及びリズムの多様 性への配慮	一人一人の生活リズムを大切に し、安心して過ごせるようにする	○一人ひとりに合わせて丁寧に かかわり、安定した生活リズムで過 ぎている ○受け入れ時には子どもの様子を聞き取り、体調や様子など家庭との共有を図っている	A	A	・一対一（少人数）では伸びていると錯覚し やすいが、集団の中では課題となる部分がある。必ず年齢の平均的な発達に戻り照らし合 わせることが必要である	
	(3)環境を通して行う 教育及び保育	「明日もやりたい」という思いを 大事にし、遊びが繋がっていけ るような環境を準備する	○クラス担任以外の職員が入る時には、伝達ノートやボードを活用して、昨日までの子どもの様子や今日の活動を伝えるようにした。遊びのつながりを意識でき、子どもの様子の伝え合いが増えた ○子どもと振り返りをし、子どもの思いに沿った明日の環境を用意したり、やりたいことをスケジュールにしたりして遊びのつながりを意識している ○乳児はとつき棚を用意し子どもの姿に合わせて視覚から遊びの続きが見える遊びだしの環境の工夫をした △保育者が想定した環境が子どもの思いとズレがあったり、前日の姿とは違う遊びが始まることがあった。子どもの姿、表情・言葉を通して子どもの思いや興味を捉えて遊びだしの環境作りや、環境の再構成を行いたい	B	B	・多様性としてみるならば個の捉えでもよい が、保育・教育となると保育者として発達の 抑えが必要である ・子ども同士のかかわりの中で主体性が見え てくるが、子ども1・2人だと大人が関わりす ぎてしまうことがジレンマとなることはわか る。保育者が悩みながらも保育することが子 どもたちの成長につながる	
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	ヒヤリハットや毎月の避難訓練・ 不審者訓練を通し、反省評価を次 月に生かす	○ヒヤリハットの報告は、打ち合わせノートに記入し、全体への報告をその日のうちに行い改善し周知した ○減災教育の研修に参加し、自園の震度想定や室内での避難の仕方について改めて確認し、今までの避難訓練やり方の見直しを行った △クラス単位で行う訓練では、実施が月末ギリギリになってしまうことがあった。計画的に行いたい	B	B	・少人数だから、どの先生も子どもの姿が見 れ園内で共有できるのは利点。これをどう子 どもの成長につなげていけるかである ・遊びがつながるための方法を園内研修や公 開保育を通して皆で話し合い、改善できると いい	
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	子ども一人ひとり心身の状態を把握し、園の職員で連携を図り保護者 と情報共有する	○子どもの受け入れを丁寧に 行い、気持ちよく朝のスタートが切れるようにした ○子どもの体調や様子を保護者と共有できている	A	A	・風揚げなど家庭ではできない体験をできる ことが大事である	
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの 推進	一人一人の子どもに合った支援を 実施し、職員間で共有していく	○担任以外の職員がクラスに入る時には伝達ノートを利用したことで、子どもの姿や遊びが共有できた ○日々の振り返りの中で子どもの姿や環境について話し合い、明日につなげている	A	A	・ICTを使つての保護者との連絡、ドキュメ ンテーションの送信は大きな変化である。保 護者がいつでも園での遊びの様子やおたより を見れるようになった。時代と共に、保育の 伝え方が変わっている。ICTをうまく利用し て園の活動を伝えていけるといい	
5 組織運営	(1)組織体制の充実	各分掌が役割を理解し、報告・連 携・相談を意識し園運営を円滑に 行う	○分掌だけではできないので皆でカバーした ○振り返りの時間を利用し、行事等の確認を行い共有した △行事の話し合いが進まず、取り組みが遅れてしまった。企画書を早めに出し具体的な内容を詰め、行事を円滑に進めていきたい	B	B		
6 研 修	(1)研修体制の充実	月案検討・公開保育等を通して園 の教育保育を語り学びあう	○公開保育で出てきた園の課題を見えるように掲示することで、翌日からの保育に意識してつなげられることができた ○子どもに選択肢を与える時の声のかけ方について学ぶことができ、実践してみると子どもの思いで保育が展開できるようになってきた △年間計画通りに進んでいなかった	B	B		
7 教育・保育環境 整備	(1)教育・保育環境の 充実	子どもがわくわく遊ぶための環境 作り（可動遊具など）教材研究を する	○絵本から遊びのイメージを広げていく中で、自分の思いを言葉で伝えるようになった ○子どもの思いに沿った環境が作れるよう、教材を出すタイミングや、素材の選択の幅など提供の仕方を意識した。子どもが表情良く取り組む姿があり、保育者も子どもと思いが通じ合える感覚がつかめた ○乳児は可動遊具を利用して体を動かして楽しめるようにした ○クリスマスの読み聞かせでは担任以外の職員が絵本を通してイメージやお話の世界を楽しむことができた △いろいろな素材の遊び方を学んで保育者の引き出しを増やす機会が少なかった	B	B		
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への 支援機能の充実	保護者と一緒に子育てを楽しむ	○保護者がいつでも子どもの様子を見れるように見学用の小さな窓を設け、普段の遊びの姿を見てもらえた ○毎月のポートフォリオは保護者に好評である。個々の遊びからの学び・気づきを伝えている ○転園、就学を見据えて面談の機会を設け、普段会えない保護者と子どもの姿を共有できた ○1月からコドモンで日々のドキュメンテーションを保護者へ直接送信できるようになり、保護者への理解が深まっている	A	A		
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との 連携の推進	西小学校や近隣園と情報交換をし たり交流を深めていく	○卒母園訪問で交流した小学生から手紙をもらったことをきっかけにお礼を兼ねてプレゼントを贈ったり、交流が つながった ○西小に風揚げや交流に行かせてもらい、年長児の小学校への期待につながっている ○他園と行事や遊びを通して交流ができた（焼き芋、ミニ運動会、入山こども園とのかっぱ探し、zoom交流等）	A	A		
10 地域との連携	(1)信頼される 園づくりの推進	支援センターや白銀児童館、S型 サービス等との交流を深め地域と のかかわりを大切にしてい	○S型デイサービスとの交流では普段楽しんでいる歌や踊りを、見てもらったり、一緒にやってもらい楽しむことが できた ○支援センターと合同でおしゃべりサロンを開催でき普段よりも多くの方に参加してもらえた。また地域にチラシを掲 示したり、配布することで情報を見て来てくれた方が増えた	A	A		